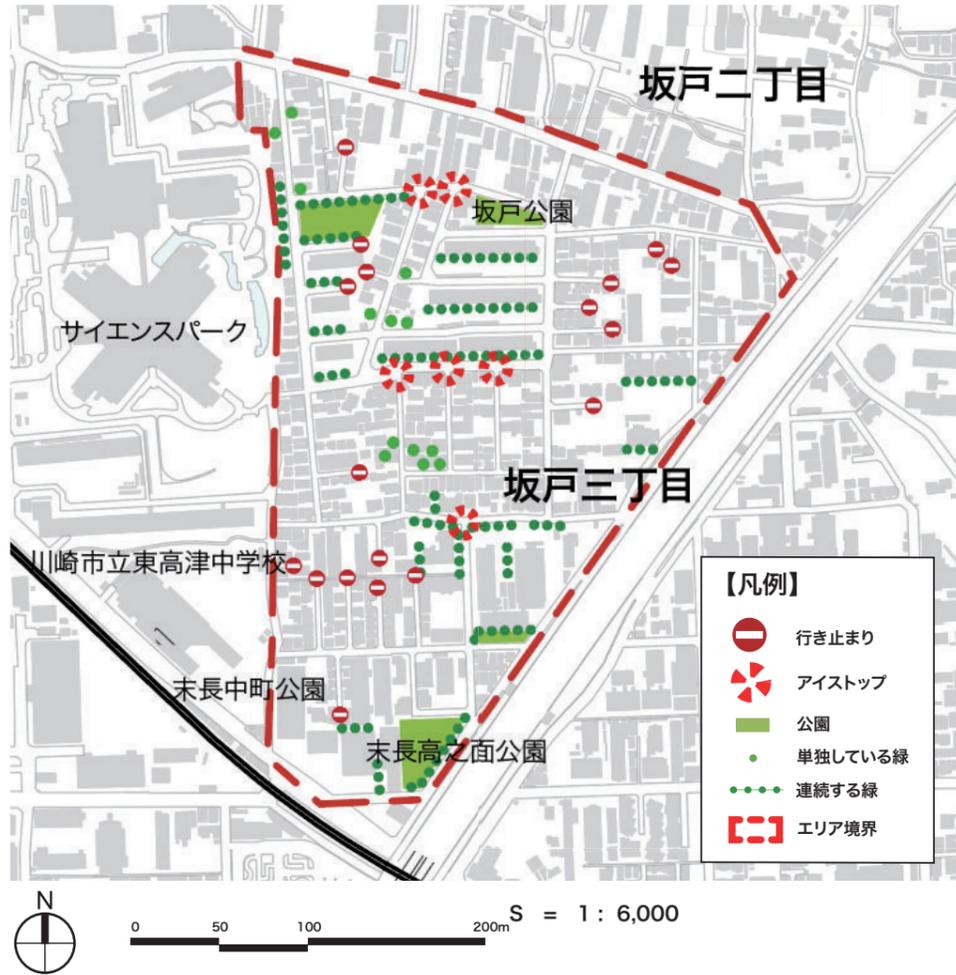


# 5-6 溝の口住宅密集エリア

この地区は、新旧の建物や昔から残されている道と、区画整理によって新たに整備された道が混在しながらも、落ち着いた統一感のある街並みが形成されています。戸建て住宅や集合住宅が連続して建ち並ぶことで、整然とした印象を与えています。外観の色や形には一体感があり、随所に緑が取り入れられていることから、日常の中に自然が溶け込んだ、まとまりのある景観となっています。一方で、歩道が狭く行き止まりが多い道路構成は、外部に対してやや閉鎖的で、閑静な住宅街の景観をつくっています。

## 景観特性



### 1.敷地ぎわまで建つ住宅



敷地が細かく小さく区画されているためそれぞれの住宅は敷地を最大限に活用し、建物が道路の境界線ギリギリまで建てられています。そのため、住宅の正面が道路に沿って整然と並び連続性のある景観となっています。また、建物の高さが比較的抑えられて、高さがそらっていることで空の見通しが良く、圧迫感を感じられません。

### 2.旧道からなる住宅地



このエリアには、いくつかの蛇行した旧道が残されています。これらの道を軸に区画整理が行われており、新しく整備された直線の道によって街が開かれています。旧道が蛇行して先が見えないことから、各区画ごとに建てられた住宅地には住民以外が入りづらくなっています。これによって、住宅同士の親密さが感じられる空間になっています。

### 3.緑の工夫が息づく住宅地



住宅が密集する溝の口の一角でも、緑の取り入れ方によってまちの風景や暮らしの質は大きく変わります。狭小な空間にも工夫を凝らし、植栽帯や小さな街路樹、垣根の緑を通して歩行者にやさしい環境が整えられています。こうした緑の演出が、密集した街並みにもゆとりと居心地の良さをもたらし、地域全体の魅力を高めています。

## 景観形成の目標

### 緑と暮らしが共存する、統一感のある住宅景観の形成へ

旧道を中心とした街区が区切られ、統一感のある街並みが形成されており、緑が多く点在している。

## 景観形成の方針

### 1.統一感ある景観と安心感のある住宅街をつくる

#### 景観形成の考え方

現在、部分的にファサードが統一されているため、一定の連続性をもつ街並みが形成されている。街並みの連続性を活かして、住宅街としての街並みを保全、調和させる。

#### 具体的な方策

- ・外壁材や色調に関して、周囲と調和するトーンを採用するよう誘導する。
- ・建物前面に植栽を取り入れることで、建物が立ち並ぶことで受ける圧迫感をやわらげつつ連続性を生み出す。



連続性をもつ街並みをつくる住宅が並ぶ

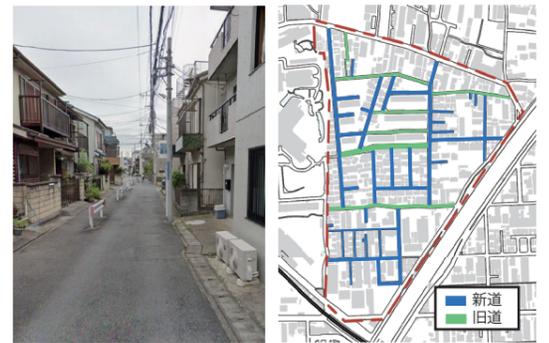
### 2.旧道の蛇行を活かした親密感を保全する

#### 景観形成の考え方

蛇行した旧道によって造られた各区画を大事にしながら、一体感を持たせ、住宅同士の関係を密にする。

#### 具体的な方策

- ・各区画に住む住民が顔見知りになるようソフト面から親密な繋がりを目指す。
- ・住民以外の不審な人物が出入りしづらくなるよう住宅同士の統一感を出し、親密さをアピールする。
- ・各敷地内で建物以外の部分で統一できそうなもの・ことは統一し、個性的な部分も大切にす。



旧道があることによって住宅の親密度が高い

### 3.密集した住宅地の緑化を推進する

#### 景観形成の考え方

緑を使うことで、視覚的な癒し、気温の調整、プライバシー確保など、住民の暮らしに多く利点をもたらされる。

#### 具体的な方策

- ・庭の設置・再整備：住民に対して庭や鉢植えなど、小規模でも緑を育てる意識を促す。
- ・グリーンカーテン(ゴーヤ、朝顔など)を活用して、日射を遮り、省エネ・美観を両立。
- ・垣根や塀の代わりに生垣を推奨(自治体による補助制度の活用も視野に)。



住宅地の中に点々と存在する緑